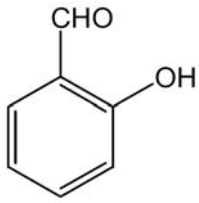


物質名	サリチルアルデヒド			DB-16												
別名	2-ヒドロキシベンズアルデヒド、2-ヒドロキシベンゼンアルデヒド、2-ホルミルフェノール、サリシラール		構造式													
CAS 番号	90-02-8															
PRTR 番号	第1種 104															
化審法番号	3-1183															
分子式	C ₇ H ₆ O ₂	分子量			122.12											
沸点	197°C ¹⁾		融点	-7°C ¹⁾												
蒸気圧	0.593 mmHg (25°C、実測値) ²⁾		換算係数	1 ppm = 5.00 mg/m ³ (25°C)												
分配係数 (log P _{ow})	1.81 (実測値) ³⁾		水溶性	1.7×10 ⁴ mg/L (86°C、実測値) ⁴⁾ 1.067×10 ⁴ mg/L (25°C、計算値) ⁵⁾												
急性毒性																
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>動物種</th> <th>経路</th> <th colspan="2">致死量、中毒量等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マウス</td> <td>経口</td> <td>LD₅₀</td> <td>504 mg/kg⁶⁾</td> </tr> <tr> <td>ラット</td> <td>経口</td> <td>LD₅₀</td> <td>520 mg/kg⁶⁾</td> </tr> </tbody> </table>					動物種	経路	致死量、中毒量等		マウス	経口	LD ₅₀	504 mg/kg ⁶⁾	ラット	経口	LD ₅₀	520 mg/kg ⁶⁾
動物種	経路	致死量、中毒量等														
マウス	経口	LD ₅₀	504 mg/kg ⁶⁾													
ラット	経口	LD ₅₀	520 mg/kg ⁶⁾													
中・長期毒性																
<ul style="list-style-type: none"> ラットに 0、2.5、10、40、160 mg/kg/day を交尾前 2 週から雄に 49 日間、雌に哺育 3 日目まで強制経口投与した結果、雌の 160 mg/kg/day 群で肝臓の絶対及び相対重量の有意な増加を認めた。なお、40 mg/kg/day 以上の群の雄で肝臓小葉周辺性の脂肪化の程度及び出現頻度の減少、雌で肝細胞内のグリコーゲン量のわずかな増加がみられた⁷⁾。この結果から、NOAEL は 40 mg/kg/day であった。 ラットに 0、1、2% の濃度で餌に添加して 13 日間投与した結果、1% 群で肝臓、腎臓のマイクロボディの数及び大きさの増加、肝細胞の脂肪滴がみられ、2% 群では肝細胞の好塩基小体の減少、膵腺房細胞のチモーゲン顆粒の枯渇がみられた⁸⁾。 																
生殖・発生毒性																
<ul style="list-style-type: none"> ラットに 0、2.5、10、40、160 mg/kg/day を交尾前 2 週から雄に 49 日間、雌に哺育 3 日目まで強制経口投与した結果、40 mg/kg/day 以上の各群で 1/12 匹が分娩または妊娠期間中に死亡し、160 mg/kg/day 群で卵巣の絶対及び相対重量の有意な減少を認め、乳頭の未発達が 2/12 匹でみられた。出生仔では、160 mg/kg/day 群で生後 0 日目及び 4 日目の低体重、生後 4 日目の生存率の低下がみられた⁷⁾。この結果から、NOAEL は 40 mg/kg/day であった。 妊娠 11 日目の母ラットに 0、400 mg/kg を皮下投与した結果、胎仔の死亡、口唇裂及び多指等の奇形の増加がみられた⁹⁾。 																
ヒトへの影響																
情報は得られなかった。																
発がん性																
IARC の発がん性評価：評価されていない。																

許容濃度

ACGIH	—
日本産業衛生学会	—

暫定無毒性量等の設定

経口ばく露については、ラットの中・長期毒性試験から得られた NOAEL 40 mg/kg/day（肝臓重量の増加）を採用し、試験期間が短いことから 10 で除した 4 mg/kg/day を暫定無毒性量等として設定する。

吸入ばく露については、暫定無毒性量等を設定できなかった。

引用文献

- 1) Handbook of Chemistry and Physics.
- 2) Daubert, T.E. and R.P. Danner (1989): Physical and Thermodynamic Properties of Pure Chemicals: Data Compilation. Hemisphere Publishing Corporation. Washington, DC.
- 3) Hansch, C., A. Leo and D. Hoekman (1995): Exploring QSAR - Hydrophobic, Electronic, and Steric Constants. American Chemical Society, Washington, DC.
- 4) Yalkowsky, S.H. and R.M. Dannenfelser (1992): Aquasol Database of Aqueous Solubility. Version 5. College of Pharmacy, University of Arizona, Tucson, AZ.
- 5) U.S.EPA, WSKOWWINTM ver. 1.41.
- 6) US National Institute for Occupational Safety and Health Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS) Database.
- 7) 化学物質点検推進連絡協議会(1996): 2-ヒドロキシベンズアルデヒドのラットを用いる反復経口投与毒性・生殖発生毒性併合試験. 化学物質毒性試験報告. 4: 153-174.
- 8) Opodyke, D.L.J. (1979): Monographs on fragrance raw materials. Food Cosmet. Toxicol. 17: 903-905.
- 9) Saito, H., A. Yokoyama, S. Takeno, T. Sakai, K. Ueno, H. Masumura and H. Kitagawa (1982): Fetal toxicity and hypocalcemia induced by acetylsalicylic acid analogues. Res. Commun. Chem. Pathol. Pharmacol. 38: 209-220.